

環境科学同窓会通信 第28号

Environmental Science Alumni Association Newsletter Vol. 28

目次/Content

1. 「学生時代の研究と仕事に関りについて」
菅野 充（日揮ホールディングス株式会社）
2. 「内陸から海へ、環境科学院での旅」
李 勃豊（北海道大学大学院地球環境科学研究院 博士研究員）

学生時代の研究と仕事の関りについて

菅野 充（日揮ホールディングス株式会社）

私は環境物質科学専攻で神谷裕一教授にご指導いただき、2011年に博士課程を修了しました。その後化学メーカーに入社し、化成品製造用工業触媒の研究開発に取り組みました。ラボスケールの基礎研究から触媒の工業化、触媒導入先プラントの運転支援まで携わりました。運転支援では国内外の触媒導入先のプラントに出向き、現地の運転スタッフへの技術内容の説明、実運転のサポートなどを行ってきました。困難な場面もありましたが貴重な経験を積むことができたと感じています。その後経験の幅を広げたいと考え、前職を退社し、2024年より日揮ホールディングス株式会社に入社しました。現在は新たな化成品製造プロセスの開発に携わっています。これまでプロセス開発の経験に乏しかったため、まだまだ分からないことや勉強すべきことが多く苦労もありますが、必要なことを身に着けながら業務を進めていくのが楽しく、現在の仕事にも充実感をもって取り組んでいます。

さて、学生当時、進路のことを考え始めたころの私は就職したら大学で取り組んできた研究に近い内容の仕事をしたというこだわりを強く持っていました。が、これまでの業務経験を通して、そこまでこだわる必要もなかったかな、というように考え方が変わってきました。私の場合は最初の仕事で希望通りの触媒の研究開発に取り組むことができました。当初は学術研究に近い基礎的な研究を中心に行うイメージを持っていましたが、先述の通り、最終的には実用化検討やプラント運転支援まで携わりました。これらの業務ではラボスケールで取り組んできたこととは着眼点、取り組み方が異なる点も多く、それらの経験を通して自身の視野を広げることができました。そして今はまた、前職とは異なる業務に取り組み日々新たな経験を積むことができていると感じています。このように、一時的に希望通りの仕事ができたとしても検討のステージが変わればやるべきことが変わっていくし、状況によって業務内容そのものが変わることもあります。よって、特定の仕事内容にこだわり過ぎず、あまり馴染みのない内容の業務も機会とらえて積極的に取り組んだ方が自身の経験の幅を広げるために良いと考えるようになりました。もちろん、専門外や未経験の仕事に携わることになっても、大学での研究を通して培ってきた経験や課題解決への取り組み方など、活かせることは多くあります。時にはこだわることも重要ですが、もし当時の自分と似たような状況の方がいれば、まず選択肢を広く考えた上で自身の納得のいく選択をされることを願っています。

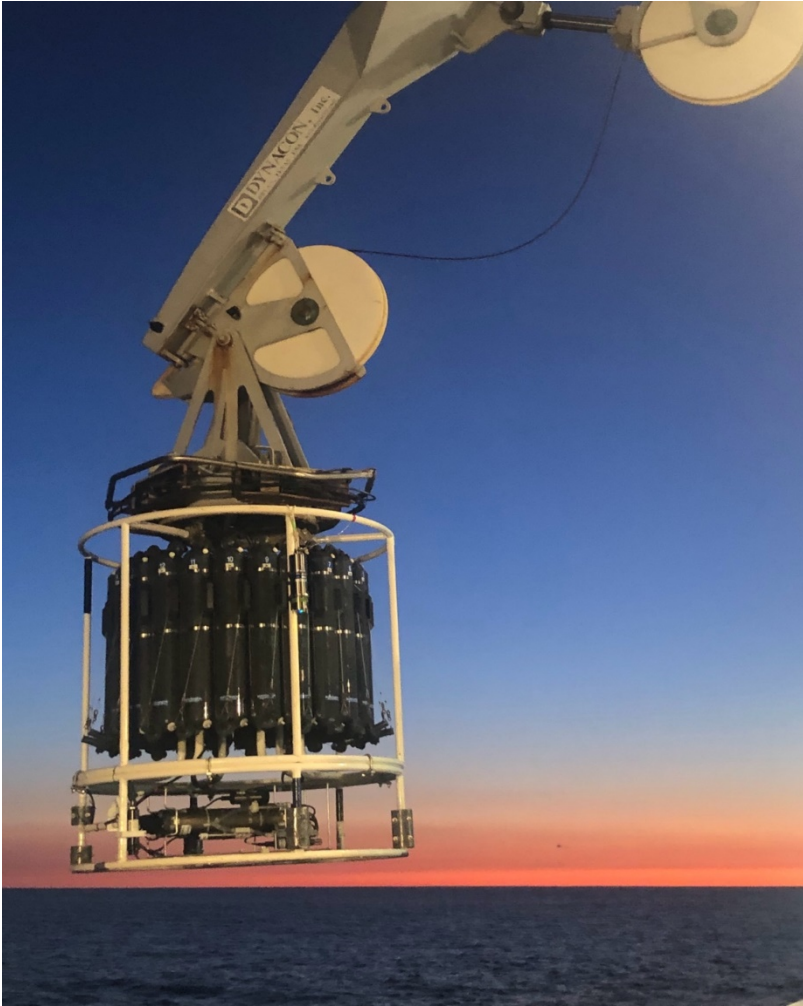
内陸から海へ、環境科学院での旅

李 勃豊(地球圏科学専攻修了 同大学院・博士研究員)

私は北海道大学環境科学院で修士課程と博士課程を修了し、卒業後同大学院で博士研究員として研究を続けてきました。現在、海水中の人為起源二酸化炭素や海洋酸性化に関する研究をやっています。

ここに来たきっかけは、学部時代に興味を持って日本語を学んだことです。その時の日本語の先生が「北海道大学は日本で最も美しい大学だ」と教えてくれ、その言葉に惹かれて大学4年生の時に留学を決意しました。当時、二酸化炭素の増加による地球温暖化という人気の話題に興味を持ち、今の専門を選びました。実は私の故郷は海のない内陸部で、食べる塩はすべて塩湖から来ています。本物の海水の苦さを味わったことがなく、周りの人を驚かせたこともありました。そんな私は、この業界に入ってから多くの研究航海に参加し、北太平洋から南極大洋まで様々な海域を観測してきました。あまり船酔いしないので、このような野外観測に参加するのが大好きで、この職業にとっても向いていると感じています。海の上で自由に漂う感覚がとても好きです。昼夜を問わず海水サンプルを採取するのは少し疲れますが、充実感があります。毎回集めた海水サンプルやデータから新しい発見があると、とても感動します。船上で仕事をしながら、様々綺麗な景色や可愛い動物たちを見ることができます。水平線から昇る太陽や沈む太陽、巨大な冰山、輝くオーロラ（実際、肉眼で見ると写真で撮った方がずっと美しく見えるが）、クジラ、イルカ、アザラシ、可愛らしいペンギン…何度見ても飽きることはありません。

環境科学院に来られて本当によかったと思います。色鮮やかな研究生生活を送る中で、さまざまな経験や知識を身につけることができました。これからの研究生生活において、これらの経験をしっかりと活かし、大自然の神秘を探求していきたいと考えています。



CTD と朝日



冰山

発行：環境科学同窓会事務局

〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目
北海道大学 大学院地球環境科学研究院内

Fax: 011-706-4867

e-mail: home-coming@ees.hokudai.ac.jp

Issuer: Environmental Science Alumni Association Office

Graduate School of Environmental Science, Hokkaido
University

Kita 10 Nishi 5, Kita-ku, Sapporo 060-0810, Japan

Fax: 011-706-4867

E-mail: home-coming@ees.hokudai.ac.jp

バックナンバーは同窓会HPでご覧に頂けます。

www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison.html (日本語)

You can visit our back issues page here:

www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison-e.html (English)